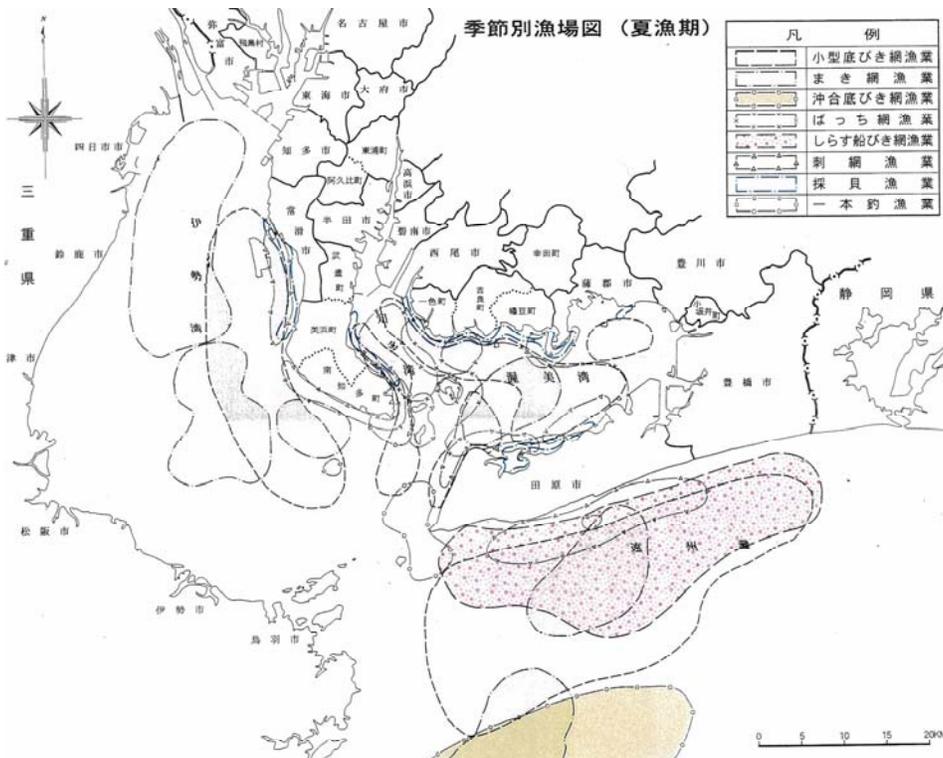


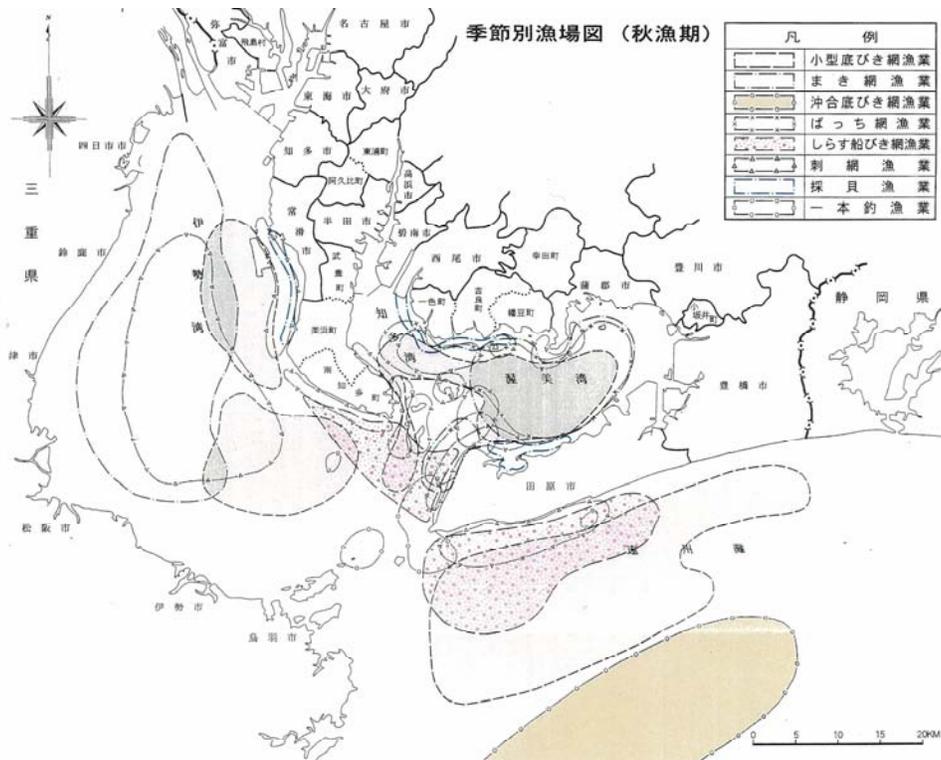
資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(1) 三河湾における季節別漁場図(春漁期)



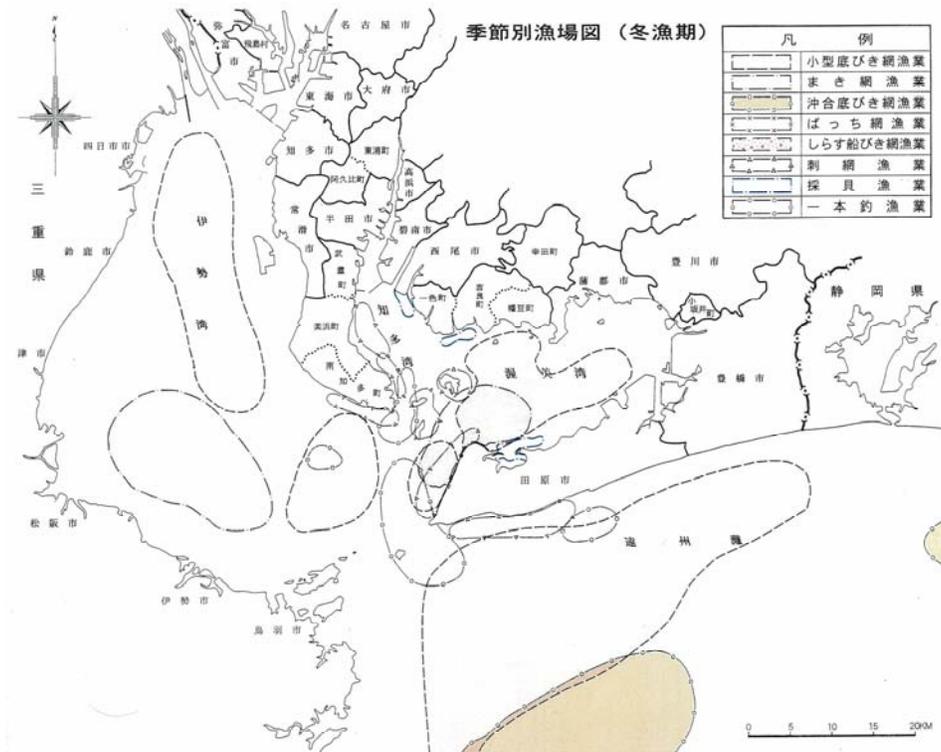
資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(2) 三河湾における季節別漁場図(夏漁期)



資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(3) 三河湾における季節別漁場図(秋漁期)



資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

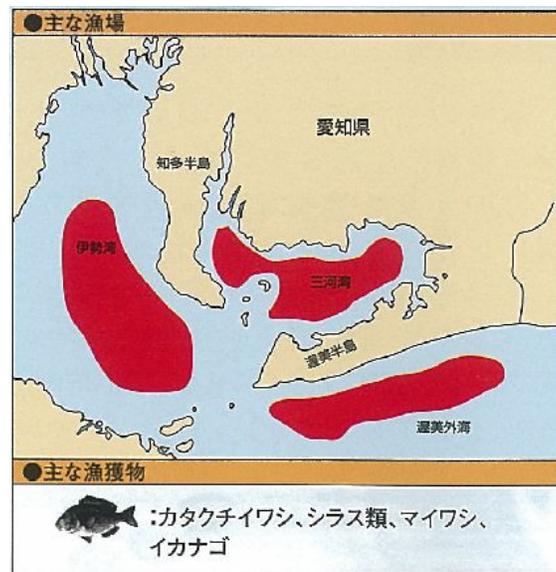
図 10.1.5(4) 三河湾における季節別漁場図(冬漁期)

また、三河湾を含む愛知県では、さまざまな漁業が行われている。三河湾では、主に海底に生息する魚介類を漁獲する小型機船底びき網漁業、一つの網を2隻の船でひき、イワシ類やシラス等を漁獲する船びき網漁業が広く行われている。また、三河湾沿岸域では、主にアサリを漁獲する採貝漁業が行われており、湾口付近では、マダイやスズキ、トラフグ等を対象とした釣漁業も行われている。その他、三河湾内では刺網漁業も行われている。養殖漁業としては、沿岸域でのり養殖業が行われており、内水面でうなぎ養殖が行われている。



資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.6(1) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(底びき網漁業)



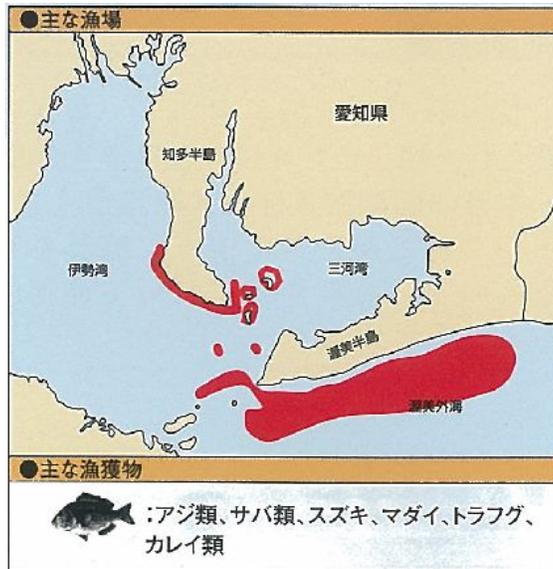
資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(2) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(船びき網漁業)



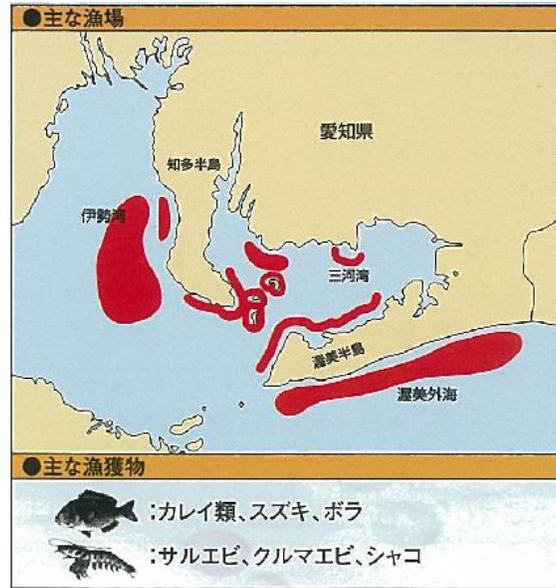
資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(3) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(採貝漁業)



資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(4) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(釣漁業)



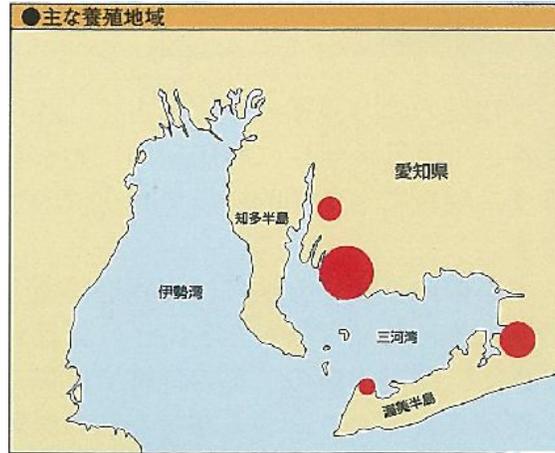
資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(5) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(刺網漁業)



資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(6) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(のり養殖業)

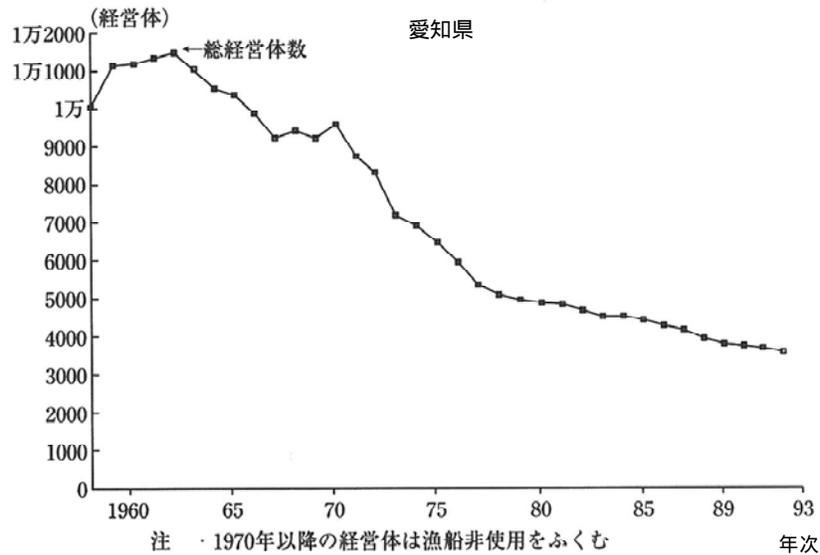


資料)「愛知県水産要図」(愛知県農林水産部水産課、2008年)

図 10.1.5(7) 愛知県における主要漁業の主な漁場と漁獲物(うなぎ養殖業)

(2) 漁業経営体数

漁業経営体数の変遷をみると、愛知県では1960年代をピークに減少傾向にある。



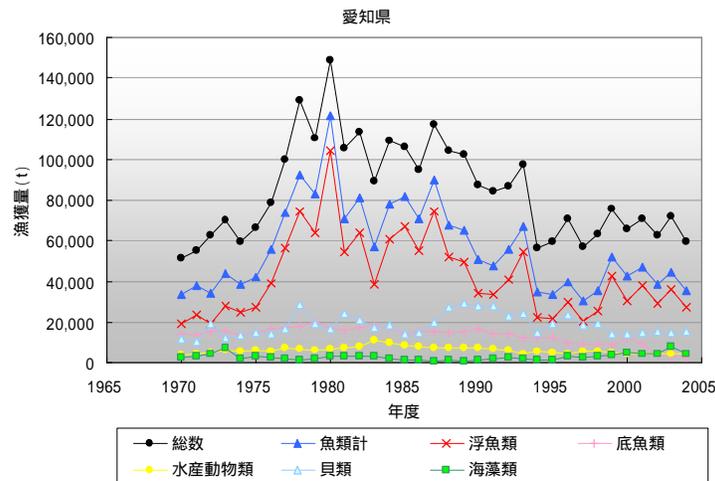
出典)「とりもどそう豊かな海 三河湾」(三河湾研究会、1997年)

図 10.1.7 漁業経営体数の変遷

10.2 漁獲量

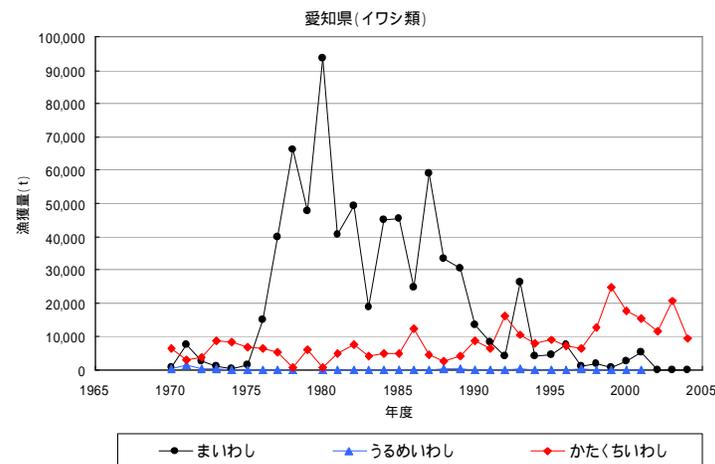
愛知県の総漁獲量は1980年（昭和55年）頃をピークに減少傾向にある。種類毎にみると、1980年頃に漁獲量のピークがあるのは浮魚類であり、底魚類や貝類、水産動物類は浮魚類とは異なる変動を示している。

個々の種では、イワシ類は1970年代後半からマイワシの漁獲量が急激に増加したが、その後減少し、近年のマイワシの漁獲量はわずかである。一方、カタクチイワシの漁獲量が増加している。ハマグリは1970年頃に漁獲量が減少しているが、アカガイは1980年頃に漁獲量が減少している。また、ヒラメは1980年頃に一時的に漁獲量が減少し、その後回復しているが、カレイは1985年頃をピークに減少傾向にある。一方、アサリ類は近年漁獲量が増加している傾向がうかがえる。



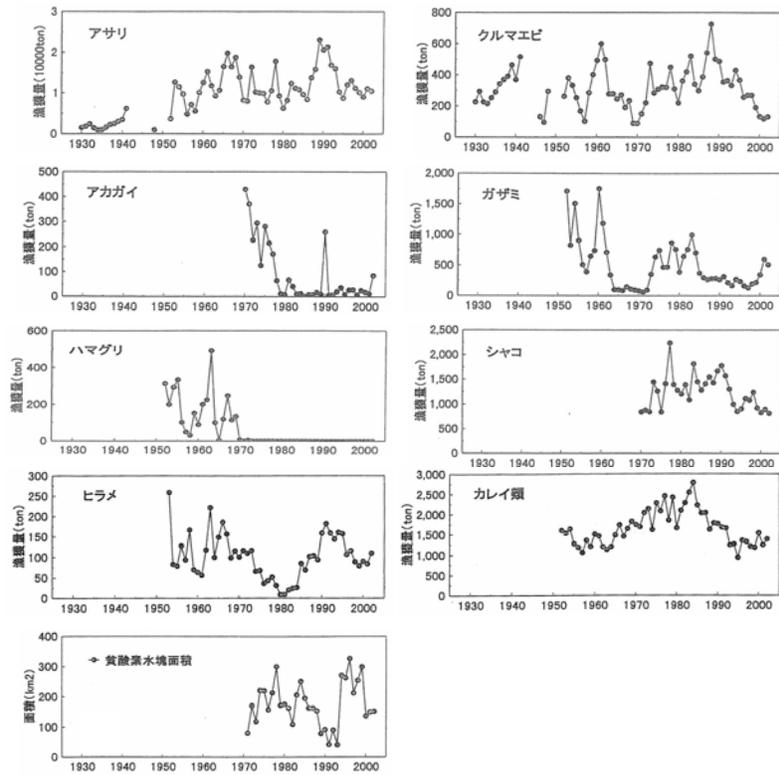
資料) 愛知県のデータを基に作成

図 10.2.1 漁獲量の推移



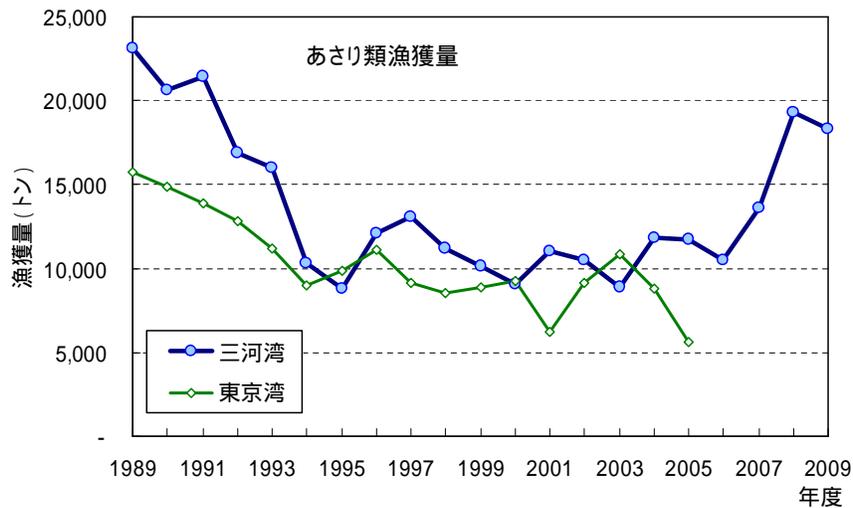
資料) 愛知県のデータを基に作成

図 10.2.2 イワシ類漁獲量の推移



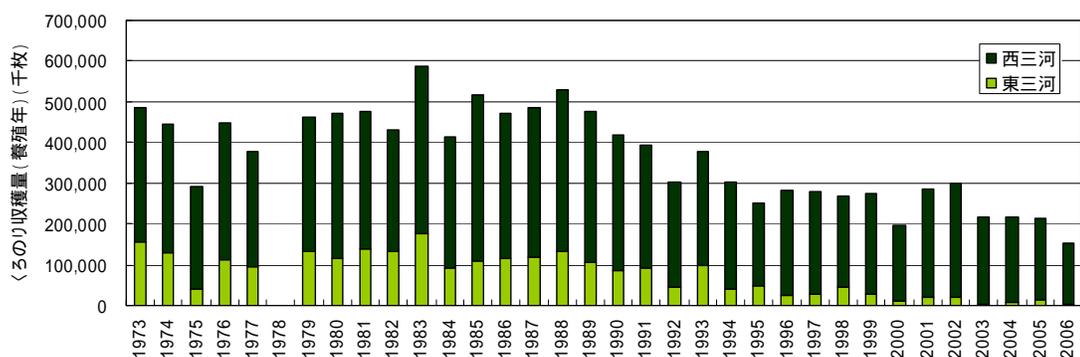
出典)中村元彦・黒田伸郎:伊勢湾・三河湾における漁業の推移,愛知大学総合郷土研究所,2005.

図 10.2.3 漁獲量の経年変化



備考：三河湾とは愛知県全体、東京湾とは東京都、神奈川県、千葉県全体を示す。
資料）愛知県、東京都、神奈川県、千葉県のデータを基に作成

図 10.2.4 アサリ類漁獲量の経年変化（近年 20 年間）



資料) 愛知農林水産統計年報より作成

図 10.2.5 くのり収穫量の経年変化 (東三河及び西三河地域)

10.3 漁業による窒素・リンの回収

伊勢湾及び三河湾における漁業生産を通じた窒素・リンの回収量は、窒素・リンともに、魚類による回収量が最も多く、次いで貝類、藻類(養殖)、水産動物、藻類(天然)の順となっており、魚類と貝類で窒素回収量の84.2%、リン回収量の92.3%を占めている。魚類のなかでは、マイワシやカタクチイワシなどのイワシ類やイカナゴの占める割合が多くなっている。

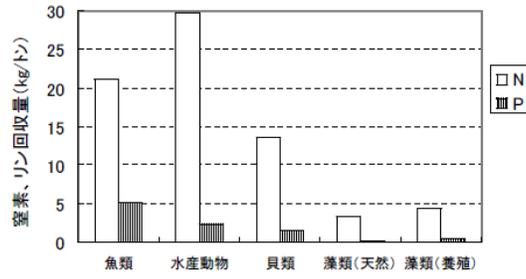
また、漁業生産による単位漁獲量あたりの窒素回収量は、水産動物 29.7kg/トン、魚類 21.1kg/トン、貝類 13.5kg/トンの順で多くなっている。一方、リン回収量は、魚類 5.1kg/トン、水産動物 2.4kg/トン、貝類 1.4kg/トンの順で多くなっている。リン回収量において魚類が水産動物よりも順位が高い理由は、魚類では骨中にもリンが多く含まれるためである。

表 10.3.1 伊勢湾及び三河湾における漁業生産による窒素・リン回収量

N (トン)	1979	1984	1989	1994	1999	2004	平均	%
魚類	2,113	2,171	2,040	932	1,546	1,056	1,643	65.2
水産動物	147	223	174	122	112	95	146	5.8
貝類	615	555	586	397	339	387	480	19.0
藻類(天然)	9	7	5	5	13	16	9	0.4
藻類(養殖)	205	304	274	282	209	178	242	9.6
合計	3,089	3,260	3,079	1,738	2,219	1,732	2,520	100.0

P (トン)	1979	1984	1989	1994	1999	2004	平均	%
魚類	498	515	489	228	384	268	397	81.9
水産動物	12	19	14	10	10	8	12	2.5
貝類	63	59	63	42	36	40	51	10.4
藻類(天然)	0	0	0	0	1	1	0	0.1
藻類(養殖)	21	31	28	28	21	19	25	5.1
合計	594	624	594	308	452	336	485	99.9

出典) 愛知県水産試験場研究報告「伊勢・三河湾における漁業生産による窒素、リンの回収」(船越茂雄、2008年)



出典)愛知県水産試験場研究報告「伊勢・三河湾における漁業生産による窒素、リンの回収」(船越茂雄、2008年)

図 10.3.1 伊勢湾及び三河湾における単位漁獲量あたり窒素・リン回収量